

不動産トレンドニュース

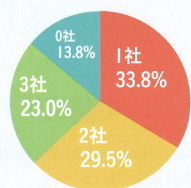
これだけはおさえておきたい話題のニュースをピックアップ。



引越しでの見学部屋数、平均値は「3.54 部屋」

(株)FJネクスト(東京都新宿区)は、「令和時代の引越し事情」を探るため、首都圏在住の単身生活者を対象にアンケート調査を行いました。調査は2020年1月31日～2月2日、インターネットで実施。400人より回答を得ました。

Q. 引越し先の部屋を決めるまでに、何社ぐらいの不動産業者の実店舗を回りますか？



全体では「1社」が最も多く33.8%。次いで「2社」が29.5%。上位2つで約6割(63.3%)を占めました。「3社以上」は2割程度(23.0%)で、「0社」という回答も1割程度(13.8%)ありました。



Q. 引越し先の部屋を決めるまでに、実際に何部屋を見ますか？

全体では「3部屋」が最も多く33.3%。次いで「5部屋」(16.8%)、「4部屋」(13.3%)の順。平均値は「3.54部屋」でした。



平均値 3.54部屋

Q. 次の部屋を決める際、重視するポイントは何ですか？(複数回答)

全体では「家賃」が85.3%で断トツのトップ。次に多かったのは「駅からの距離」で47.5%。「部屋の広さ」(44.0%)、「部屋の設備」(42.3%)が続きました。男女別では、男性は「部屋の広さ」(49.0%)、「部屋の設備」(44.5%)といった部屋そのものを重視するのに対して、女性は「駅からの距離」(54.0%)、「セキュリティ」(25.0%)といった立地や環境面にも気を配る傾向がみられます。



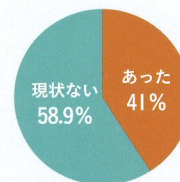
「新型コロナウイルスによる賃貸住宅マーケットへの影響について」の調査結果を公表

リーシング・マネジメント・コンサルティング株式会社(以下 LMC、本社:東京都港区、代表取締役社長:齊藤 晃一)は、3月12日、「新型コロナウイルスによる賃貸住宅マーケットへの影響について」の調査結果を公表しました。※本データは、2020年3月5日～3月10日の期間にLMCが実施した、首都圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)所在の賃貸不動産仲介店舗151社に対するアンケートをもとに集計したものです。

●「新型コロナウイルスによる賃貸仲介事業への影響」

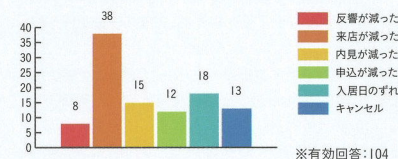
「新型コロナウイルスの影響によって売上面への影響があったか」という設問では、回答店舗151店の約41%にあたる62店舗が「あった」と回答しました(図表①)。具体的な影響としては、「来店数の減少」が最も多く挙がり、「入居日のずれ」や「申込キャンセル」も発生しています(図表②)。「中国の工場が稼働していない影響で資材が調達できず、新築の竣工やリフォームが遅れており引越し日がずれた」という声もありました。

図表①. 新型コロナウイルスによる賃貸仲介事業の売上面への影響があったか？



※有効回答:151

図表②. 新型コロナウイルスによる賃貸仲介事業への影響



※有効回答:104

●「新型コロナウイルスによる法人客足の変化」

「法人の動き(転勤等)に影響があったか」という設問では、22店舗(15.6%)が「影響があった」と回答しました。その中で最も多いのは「転勤が無くなる、又は延期になった」という意見が46.2%となり、「法人の社宅に関する相談も例年に比べ減少していることを実感している」という回答もありました。また、「入居する方が外国籍だったため、オーナーから入居を断られてしまった」という意見もありました。

●「新型コロナウイルスの影響下での営業活動をする際の工夫」

営業活動での工夫では、「マスク着用の徹底やアルコール消毒」といった対策をしている意見が多く集まりました。「物件現地待ち合わせでの内覧」や「IT重説」など、接触頻度を減らすための工夫をしているという意見も聞かれました。



空き家率全国一の山梨県で、「空き家物件を探している方」と「空き家にお困りの方」をつなげる WEB サイトが始動

建築設計・施工の株式会社SHOEI(本社:山梨県甲府市 代表取締役:大原勝一)は、空き家探し・空き家活用の相談に特化したWEBサイト「ForMIRAI(フォーミライ)」を2020年3月10日にオープンしました。

「forMIRAI」は、「理想とする空き家を探している人」を「空き家にお困っている人」につなぐ日本で初めて(2020年3月自社調べ)のマッチングサービス。日本一空き家率の高い山梨県(2019年4月総務省「住宅・土地統計調査」)で一軒でも多く空き家を減らすべく、当サービスは立ち上げられました。



本文参照元: SUUMOジャーナル
プレスリリースより